



(題字は初代学長 山田守英氏)

第 126 号

平成18年12月15日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



秋晴れた日に(十勝岳連峰 上富良野町)

(写真撮影: 学生支援課)

授業評価の公表	2	学生の交通事故・違反の取扱に関する申合せ	
平成18年度解剖体慰霊式	24	について	27
医学科第2年次後期編入学式	25	平成19年度授業料の一括納付について	27
外国人留学生秋季オリエンテーション	25	投書箱の設置について	28
スキルズ・ラボラトリーが移転しました	26	教員の移動	28
「音楽の夕べ」開催される♪	26	窓外	藤尾美登世 28
体育大会実施される	26		

平成18年度前期における「学生による授業評価」結果の公表にあたって

授業評価委員会委員長 藤 尾 均

本学教員（常勤・非常勤）に対する「学生による授業評価」も今回で6年目に入りました。平成18年度前期の結果をここに公表いたします。

公表の内容は、従来の方針に従い、以下の①～⑤の5項目となっています。すなわち、

(1) 個々の教員を対象とする「講義に対する学生評価」に関しては、

- ① 評価を受けた教員全体の得点分布を示す表および棒グラフ、
- ② 評価用紙の各設問の最高点・最低点を部局別に線でつないだ図。
- ③ 評価を受けた教員のうち、得点が上位20パーセント以内に入る教員の氏名・所属、評価を受けた科目（原則として必修科目）とその日時・対象学生・履修者（登録者）数、評価用紙の配布数・回収数・回収率。
- ④ 評価用紙の問5～問17の各点を平均した値が高い上位3名の教員の、個々の設問ごとの点数と教員自身によるコメント。

(2) 複数の教員による統合科目を対象とする「企画に対する評価」に関しては、

- ⑤ 設問ごとの点数とコーディネーターによるコメント。

なお、今回、専任教員のなかに、御本人からの申し出により、いったん選択科目で評価を受けたあとで改めて必修科目で評価を受け直した方が1名ありました。①の得点分布の中には、その両方の評価結果が含まれています。

また、①の得点分布において最高値（4.7）として表示されているのは非常勤講師の魚井一由先生の得点ですが、同講師が評価を受けた担当科目は一般教育の選択科目「ロシア語講読」であり、本年度の場合、同科目の受講者は3名でした。この結果を、数十名の受講生からなる必修科目での評点と同列に扱うことには統計学的に無理がありますので、同講師は、④のいわゆる「ベスト3」の教員には含めませんでした。

本委員会では、教員の多くから寄せられた意見を参考に、本年6月から、評価用紙の配布は本委員会委員ではなく授業担当教員自身が行うというかたちに改めました。委員が教場に赴くと授業の流れが阻害される、という声に配慮した措置です（ただし、評価用紙の回収のほうは、従来どおり本委員会委員が行っております）。しかし、この措置により、評価用紙の回収率が若干下がってしまいました。来年度以降、配布・回収をどのように行ったらよいか、目下、本委員会で検討し直しています。

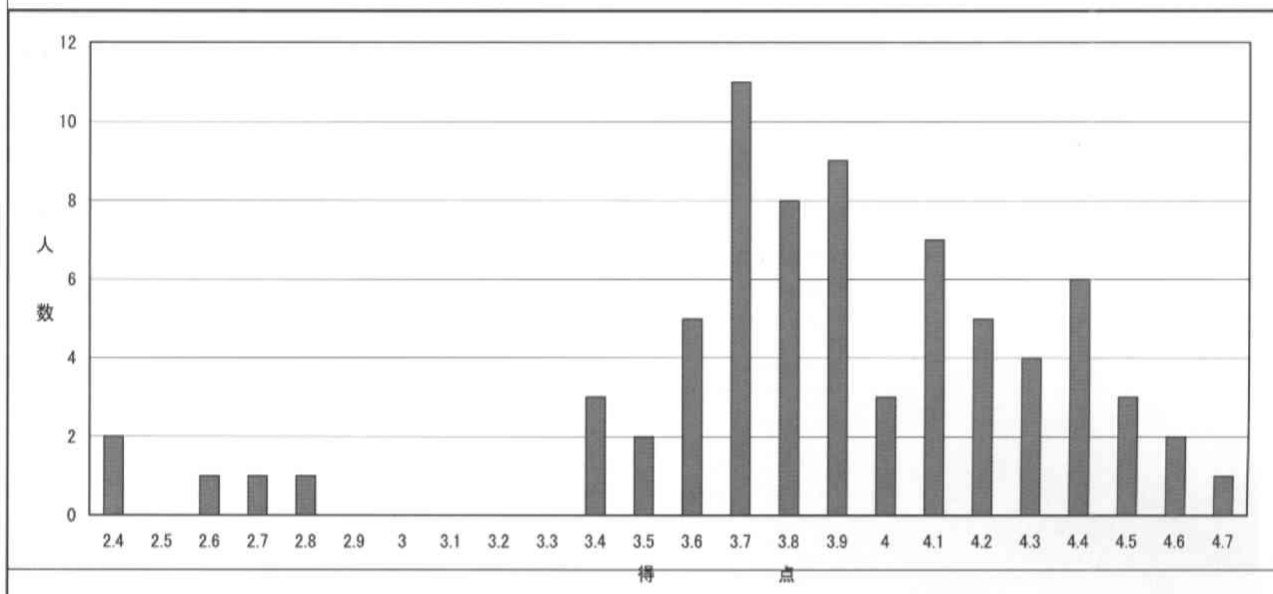
来年度から、「講義に対する学生評価」の結果は教員の「貢献度評価」に利用されます。このことは既に本学理事会において決定されていますが、その利用方法については、目下、貢献度評価検討委員会のほうで検討されていると伺っています。授業評価委員会としましても、回収率の向上をはじめとして、評価精度のアップに向けて、いっそうの努力を傾注していく所存です。教員各位のいっそうの御協力をお願いいたします。

平成18年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

	得点																							
	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7
人数	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3	2	5	11	8	9	3	7	5	4	6	3	2	1

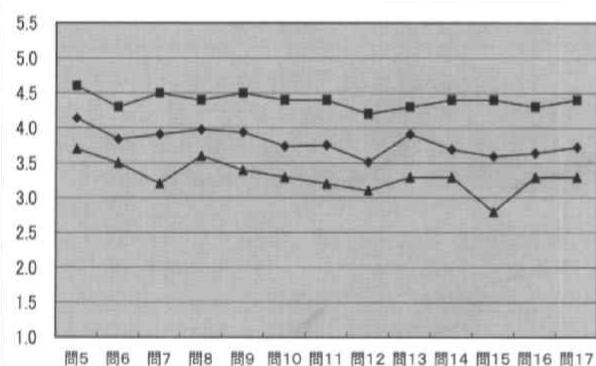
(合計74名 平均値3.9)

問5～17までの各平均点と最高・最低点



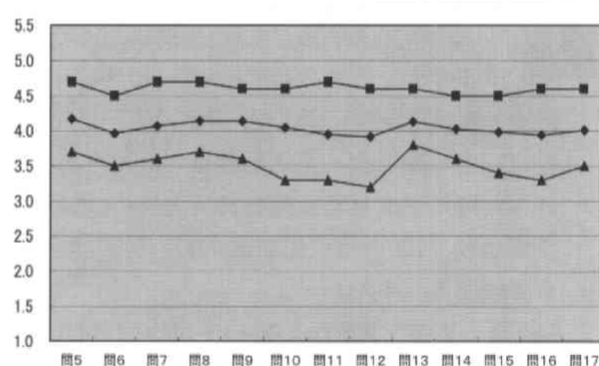
基礎医学講座(10人)

◆平均 ■最大 ▲最小



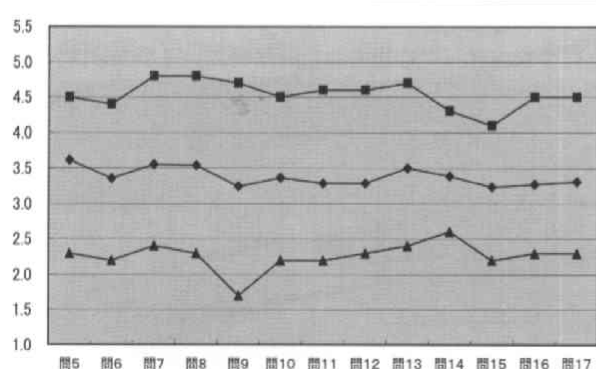
臨床医学講座(36人)

◆平均 ■最大 ▲最小



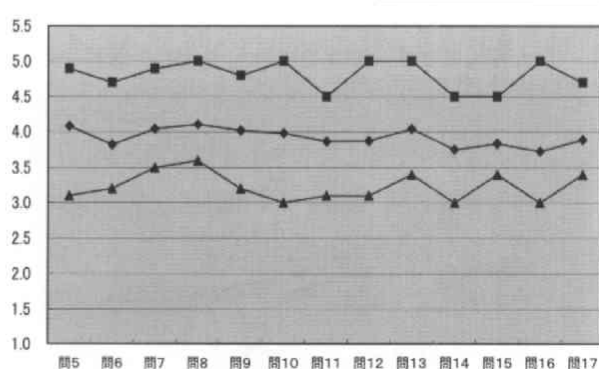
看護学講座(11人)

◆平均 ■最大 ▲最小



一般教育(16人)

◆平均 ■最大 ▲最小



講義に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
講義計画	問5 各回の講義はよく準備がなされていましたか。 問6 履修要項は授業全体のポイントを理解する上で適切でしたか。
教育意欲・態度	問7 教育に対する情熱・熱意が感じられましたか。 問8 学生に接する態度は授業担当者として適切でしたか。
講義技術・内容	問9 明瞭で聞きとりやすい話し方でしたか。 問10 教材（プリント・スライド・板書など）は適切でしたか。 問11 講義において重要ポイントを強調してくれましたか。 問12 学生の反応を確かめながら講義していましたか。 問13 豊富な知識があり、かつ説明が論理的でしたか。 問14 授業の難易度は適切でしたか。 問15 各回の講義内容は量的に適切でしたか。 問16 今後の学習意欲を増す内容でしたか。
総合評価	問17 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通）
② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

1

麻醉・蘇生学講座 鈴木 昭 広

科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修科目）

日 時：平成18年5月16日（火） 4 講目

履修者数：105 配布数：89 回収数：53 回収率：59.6%

*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.6	4.5	4.7	4.7	4.6	4.5	4.7	4.6	4.6	4.5	4.5	4.6	4.6

*評価に対するコメント

麻醉・蘇生学講座 鈴木 昭 広

大変光栄です。学生さんはもとより、教授をはじめ教育好きなスタッフに恵まれた麻醉科にいるおかげです。学生時代1,2年目は留年すれすれの進級を続けた私は3,4年目の薬理、病理、細菌学などの基礎医学の講義で勉強の楽しさを知りました。しかし5年目、待ちに待った臨床講義の第一講は医学の話ではなく「昨今の学生への説教」でした。すっかり出鼻を挫かれ、私はまた試験対策を読むだけの学生に落ちぶれました。そんな自分が講師側に回ってからは、「最低限、熱意のある学生の期待を裏切らない」「出席者の興味を沸かせるような講義をライブとして楽しむ」事を心がけています。今後も一発屋といわれないように精進します(^_^;)。

2

生命科学 林 要喜知

科目名：人間科学Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修科目）

日時：平成18年7月14日（金） 5講目

履修者数：60 配布数：55 回収数：55 回収率：100.0%

＊評価結果

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.6	4.1	4.9	4.9	4.8	4.7	4.4	4.8	4.7	4.3	4.2	4.4	4.7

＊評価に対するコメント

生命科学 林 要喜知

講義で毎回心がけてたいことは、学生が講義内容に興味を持ち、積極的に理解しようと集中してくれることである。興味をもてなく理解もできない話に60分間も我慢させるより、半分の内容であっても、学生が自ら理解しようと集中する講義が望ましいから。といっても毎回こんな調子だと、シラバスの内容を消化しきれず、困った事態をまねく。そのため、時には、進度の早い講義となってしまう。今回、高い評価を受けながらも、評価項目の点数にばらつきがあるには、こんな矛盾があったからだろう。講義の時間配分を考えながら、整理のポイントをより明確にすべきだと反省している。にもかかわらず、熱心に講義に耳を傾け、質問カードに沢山の内容を書いてくれた学生が多かったことは、感謝に耐えない。

3

非常勤講師 エリック・ハジメ・ジェーゴ

科目名：医学英語Ⅲ（医学科第3学年前期／必修科目）

日時：平成18年6月15日（木） 3講目

履修者数：14 配布数：13 回収数：11 回収率：84.6%

＊評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.9	4.7	4.9	4.7	4.7	4.5	4.5	4.8	4.5	4.3	4.0	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

非常勤講師 エリック・ハジメ・ジェーゴ

I am humbled by this honour. I was thrilled to have been given the opportunity to teach at AMC this year for the first time. I never expected that the course would be evaluated so favourably. I'm so happy not only about receiving this very honourable distinction, but also because of the effort students made to improve their skills every lesson.

I appreciate all the students for their effort and patience with me as I worked to piece together a course for them. The students had a genuine interest in developing their oral presentation skills and they did their best to get as much out of the course as they could. I want to thank the students for the very honest and useful comments.

I'll use them to try my best to make a course that is hopefully both useful and interesting for next year.

以下4. 3以上（上位20%内）の教員は次のとおりです。（*五十音順）

所 属 名	教 員 名	科 目 名		日 時	学年	履修数	配付数	回収数	回収率(%)
看護学科	伊藤 幸子	母性看護学	必修	平成18年8月24日(木)2講目	看3	59	59	59	100.0
麻酔・蘇生学講座	岩崎 寛	臓器別・系別講義Ⅷ	必修	平成18年5月16日(火)2講目	医4	105	97	43	44.3
小児科学講座	梶野 浩樹	臓器別・系別講義Ⅶ	必修	平成18年5月11日(木)2講目	医4	104	57	33	57.9
放射線医学講座	秀毛 範至	生命化学Ⅺ	必修	平成18年5月17日(水)1講目	医2	88	63	60	95.2
健康科学講座	杉岡 良彦	社会医学	必修	平成18年6月15日(木)4講目	医4	104	86	30	34.9
麻酔・蘇生学講座	高畑 治	臓器別・系別講義Ⅷ	必修	平成18年5月15日(月)2講目	医4	105	88	45	51.1
外科学講座	平田 哲	臓器別・系別講義Ⅳ	必修	平成18年8月22日(火)3講目	医3	96	86	65	75.6
救急医学講座	藤田 智	臓器別・系別講義Ⅷ	必修	平成18年5月22日(月)2講目	医4	105	78	39	50.0
小児科学講座	蒔田 芳男	臓器別・系別講義Ⅶ	必修	平成18年5月8日(月)1講目	医4	104	77	42	54.5
看護学科	升田由美子	基礎看護学Ⅱ	必修	平成18年5月17日(水)6講目	看2	70	65	65	100.0
看護学科	山内まゆみ	母性看護学	必修	平成18年6月22日(木)2講目	看3	59	57	52	91.2
内科学講座	渡 二郎	臓器別・系別講義Ⅳ	必修	平成18年8月22日(火)5講目	医3	96	93	60	64.5

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題問および教員間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 各担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通）
② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：生命科学Ⅰ（医学科第1年前期／必修）

履修者数：90 配布数：89 回収数：86 回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	4.4	4.2	3.2	4.2	4.1	4.0	4.2	3.9	3.9	4.0	4.2	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅰコーディネーター 上 口 勇次郎

本科目は生物学を主体とした講義で、生命科学Ⅱ～Ⅺの基礎となる導入コースである。昨年と同様に今年も講義企画の総合評価で比較的良好な評価（4.1）を受けたので、基本的な講義の枠組みは現行どおりとしたい。また、昨年指摘を受けた点については今年度かなり改善できた。すなわち、「高校生物非履修者に対する配慮が足りない」という点については、今年から「自然科学入門」（理科基礎補習コース）を新設し、これを終えてから本科目の講義に入るように設定した。「講義のコマが試験直前に集中する」という点については、「チュートリアルⅠ・Ⅱ」の改善によってできた時間的ゆとりを用いて本科目講義コマの均一な配分を行った。また、「講義スライドの内容をプリントして配布してほしい」という点についても今年度からさっそく実施に移した。

一方、今年度新たに「教科書の内容が授業内容とマッチしていない」との指摘を受けたので、この点を今後検討するとともに、講義内容にさらなる工夫・改良を加えるよう努力したい。

科目名：生命科学Ⅱ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：89 配布数：89 回収数：89 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.2	3.8	2.9	3.9	4.0	3.8	4.0	3.6	3.5	3.7	3.5	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅱコーディネーター 谷 本 光 穂

この科目は、物理学を基調とした統合科目である。一昨年度までは臨床医学講座の協力を得た内容であったが、昨年度より更に基礎医学講座の協力も得て内容の充実を図った。今年度の入学者の特徴は、高校で新カリキュラムの教育つまりいわゆるゆとり教育の洗礼を受けてきた学生集団であり、いろいろと心配していたが評価結果を見る限り心配は要らなかったことがわかってはとしている。評価の単純平均は3.65であり昨年同様である。また、科目構成について（問5から問8）の平均は3.93、科目内容（問9から問13）の平均は3.58であった。統合科目が始まった平成11年（総合生命科学Ⅴ）より統合科目の企画、構成、内容について種々の改善を行ってきたがほぼ満足のいくものが出来上がっているように見える。また、リメディアル物理学（自然科学入門（物理学））が実施されていることも影響していると思われる。この科目の充実のために長年に亘って協力して下さった基礎医学講座、臨床医学講座の先生方、また、自然科学入門（物理学）を担当して下さった先生にそれぞれこの場をお借りして感謝申し上げたい。

科目名：生命科学Ⅲ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：88 配布数：86 回収数：83 回収率：96.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.8	4.4	4.2	3.1	4.1	4.4	4.2	4.4	3.9	3.7	3.8	3.7	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅲコーディネーター 山内 一也

生命科学Ⅲの授業内容は、コンピューターリテラシーと統計学の初歩を学ぶことにある。クラスをA組、B組の2クラスに分け、A組がコンピューターリテラシーを受けているときは、B組は統計学の授業を受けるというようにして、担当教官には負担増となるが、週2回の授業を展開した。「あなた自身について」という評価の項では、2.8、4.4、4.2、3.1という評価であるが、出席状況の評価が高いのは、コンピューターリテラシーでは毎回レポートを提出しなければならないこと、統計学の授業では、毎回小テストを行うという授業形態によるものであると思われる。「科目構成」という評価の項では、4.1、4.4、4.2、4.4という評価なので一応の評価を受けたと考えられる。「科目内容」という評価の項では、3.9、3.7、3.8、3.7、3.9という評価で、前回評価よりも向上したと言える。「総合評価」では4.0という評価なので一応の評価を受けたと考えられる

科目名：生命科学Ⅷ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：88 配布数：87 回収数：79 回収率：90.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	3.8	3.8	3.5	4.2	4.2	4.1	4.3	3.9	3.8	4.1	3.9	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅷコーディネーター 鈴木 裕

複雑な代謝反応とその制御および分子レベルの異常と病態発症について、重要なポイントをより理解しやすく明示するなど、生化学の重要性を認識し興味を持って学習できるように継続的に改良してきています。授業評価結果と記載意見から、その効果が現れていると把握できます。生命科学Ⅷは生命科学Ⅸおよび基礎医学Ⅰといった一連の科目の出発点として、また生命科学実習Ⅵ（生化学実習）実施のための基本を学ぶ科目としての意義を持たせてあります。今後も、このカリキュラムの意義を果たし充実した学習成果がさらにあがるように、授業と試験の実施方法を工夫しなければならないと考えています。

科目名：社会医学基礎Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：86 配布数：86 回収数：86 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.6	4.5	3.8	2.6	4.2	4.4	4.3	4.4	4.3	4.3	4.2	4.1	4.2
問14	問15	問16	問17	問18								
4.3												

＊評価に対するコメント

社会医学基礎Ⅰコーディネーター 藤 尾 均

医学科第1学年を対象とした必修科目で、内容はコアカリの「A. 基本事項（1）医の倫理と生命倫理」に完全に対応している。今年度はまず、八竹学長と石川病院長に医学・医療や大学病院に関する概論的な入門講義を各1コマお願いし、その後、筆者（藤尾）が残りの13コマを担当した。

評価点も学生によるコメントも例年とほぼ同じで、評価は比較的高かったといえようが、それに満足してばかりもいられないと思い始めた。その理由は次の2つである。

①学生による高い評価は主として、要点をわかりやすくまとめた筆者の手作りプリント（そのため試験対策が容易）と比較的平易な試験問題に起因しているようであり、学生は筆者の講義そのものに満足しているわけではないらしいから。

②医の倫理に関する諸問題（たとえば安楽死や体外受精）では、学生自身が当該問題を主体的に思索することによって自らの倫理観を醸成することが大切であろうが、時間の関係もあって、教員の一方的な講義を学生が聴いてその内容を覚えるという形式に墮しているから。

来年度は以上の2点を克服した授業内容を心がけたい。なお、病院長のコマでは、コーディネーターである筆者の事前の配慮が行き届かず、教室の視聴覚機材が故障していた。この場を借りて病院長・学生双方にお詫びしたい。

科目名：生命科学Ⅹ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：88 配布数：87 回収数：66 回収率：75.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	3.8	3.9	3.3	4.1	4.0	3.9	4.1	3.7	3.6	3.9	3.8	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅹコーディネーター 柏 柳 誠

教官の講義に対する評価項目である問5～14の平均は、一昨年3.6、昨年3.7、今年3.9と徐々にではあるが年を経るごとに上昇している。総合評価も平均と同様に昨年の3.7から3.9と改善されている。一つの要因としては、学生の学習態度に関する問1～4の平均が昨年よりも0.2ほど増加しているので、本科目に意欲的に取り組んでいることが考えられる。この変化の要因が、教官が学生の興味を引く講義を展開した成果であると喜ばしいことである。生命科学Ⅹという生化学と生理学が融合した新しい科目に対して、教官が徐々に対応してきた現れではないかとも思われる。今後も、学生からの前向きな提言を取り入れて、学生の勉強意欲を向上させる講義を展開するためにより一層の工夫が必要と思われる。

科目名：生命科学X（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：89 配布数：89 回収数：85 回収率：95.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	3.8	4.0	3.2	4.1	3.6	3.7	4.1	3.7	3.7	4.0	4.2	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9												

＊評価に対するコメント

生命科学Xコーディネーター 立野正敏

生命科学Xは、主に免疫学を履修する科目である。生命科学の分野でも細胞反応から分子生物学的解析を含めて範囲が広く、専門用語の量や実験系を基にした方法論など、他の科目と比較すると、それら理解するために多くの時間を必要とすることは否めない。学生の評価では、やはり講義内容の量やその難解な部分についてのコメントなどは、それを反映しているものと考え。講義中に積極的に質問する学生は少なく、理解しているのか判断することも難しい。講義内容としては、まだ免疫学全体の一部しか含んでいない。さらに内容を浅くして理解しやすい量に調整することは容易だが、免疫学のおもしろさ、臨床医学に関わる免疫機構を理解するための最低限の内容をカバーすることも必要と考える。特に、他の科目より自己学習時間を多くとり、基本的な免疫学用語を理解することに重点を置いて履修することが望まれる。講義内容では、学生に理解しやすい部分と難解な部分についての時間配分、構成について再度検討していきたい。

科目名：生命科学XI（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：98 配布数：86 回収数：72 回収率：83.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.1	3.8	3.0	4.1	3.8	4.0	4.1	3.7	3.3	3.8	3.8	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9												

＊評価に対するコメント

生命科学XIコーディネーター 田中邦雄

本科目は学生にとってはこれまでなじみのない医用工学から最新の画像診断法にかかわるもので、若干の担当教員の入替えがあったが、講義の進め方は例年通りである。学生自身の評価としては昨年に比べて復習に取り組む学生が多く、また科目構成に関する評点も4前後であり本科目企画の狙いは理解されているものと考えられる。科目内容については、例年通り内容の理解が3.3と最も低い評価ではあるが、総合評価は3.9と昨年（3.4）より向上した。意見記載欄でも講義の趣旨を理解した記載が目立った。また、前期試験の平均点が72点であり、2学年前期の時点としてはまずまずの講義内容の理解度ではないかと考える。次年度も引き続き「理解しやすい」講義となることを念頭に進めていきたい。

科目名：社会医学基礎Ⅲ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：88 配布数：88 回収数：83 回収率：94.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	3.9	3.8	3.4	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	3.9	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9												

＊評価に対するコメント

社会医学基礎Ⅲコーディネーター 田 中 剛

本年度の基本方針は、よき人間関係がいかに医療コミュニケーションの実際において大切であるかを、「授業の組み立て方、学生からのフィードバック（より具体的には講義への反応、顔色）、偏らない新しい知見と普遍的な人間的価値の提示、そして何よりも、態度（私自身の物腰）」などに配慮し、きめ細かく全員と意思疎通をはかることとしていました。個々の特性をもった患者さんをまず共感的に受容することが、後日それまで蓄積した専門知識を生ず素地の創造にもつながる、この点をおそらく毎時間の話題のバリエーションのなかに織り込んできたと思います。最後の項目については、この講義が90人規模ですので、残念ながらわずかな成果でした。ただ救いでもあり、また感心したのは学生諸氏の熱心な傾聴でした。感謝したいと思います。

また、各1コマでしたが、産科婦人科学、法医学の講義によって、医療コミュニケーション分野が現代ではより凝縮してそれらの専門領域に現れること実感してもらえたと思います。

科目名：医療情報学（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：96 配布数：95 回収数：93 回収率：97.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.1	3.4	3.0	3.9	4.0	3.9	4.1	3.9	3.7	3.9	3.4	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

＊評価に対するコメント

医療情報学コーディネーター 廣 川 博 之

医療情報学は昨年と同様に、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマで構成されている。これらはいずれも医療情報学で扱う重要な領域であるが、学生諸君から理論的な事項より具体的な事例等に時間を割いてほしいといった指摘をいただいた。臨床医学を学ぶ前に開講されるため、理解しがた面があったかと思われる。来年度の講義の展開順序、内容等を決める上での参考にしたい。

また、昨年と同様に授業が終了してから試験までの期間が長すぎるとの意見が複数あった。今後の検討課題としたい。

科目名：臨床医学序論（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：96 配布数：94 回収数：82 回収率：87.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.8	4.3	3.6	3.1	3.9	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.8	3.8	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

＊評価に対するコメント

臨床医学序論コーディネーター 奥村利勝

平成16年度の医学科に新規開講した臨床医学序論は、昨年度より臨床医学臓器別系統講義に先立ち、各臨床講座の守備範囲を含む総論で講義を構築してきました。臨床医学全体像を見渡す意味では各論の前に行われる意義は大きいと考えております。最も印象に残った講義内容について書かせた今年度の学生のレポートからは、全診療科にそれぞれインパクトを感じていたようですが、今年は特に泌尿器科に対するインパクトが大きかった印象を受けました。授業評価に関しては、全体的な満足度が3.8と低く回収数82人の中で、あまり良くないが5名、全く良くないが1名、自由意見欄をみると、3名から科目の意義／意味がないとする意見がで反省させられる評価でした。一方、大変良いが23名、良いが27名で回収分の6割の学生がこの解答であり、半分以上の学生には時期／内容ともに問題なかったと考えてます。この時期にこの内容の講義を開講するか否かは本講義だけの問題ではなく、カリキュラム全体に関わる問題でもあり、学生からの評価もより高学年になってからのretrospectiveな評価も今後は参考になると思います。

科目名：臨床医学概論Ⅰ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：96 配布数：96 回収数：95 回収率：99.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.8	4.4	3.8	3.1	4.2	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.0	3.8	4.2
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

＊評価に対するコメント

臨床医学概論Ⅰコーディネーター 藤尾均

本科目3年目の本年度は、健康科学講座スタッフ（非常勤を含む）6コマ、法医学講座スタッフ（塩野副学長を含む）5コマ、一般教育歴史・哲学スタッフ4コマで実施した。計15コマでありながら総勢7名の、文字どおりコマ切れ科目である。法医学・健康科学（公衆衛生学）・医事法規その他が入り乱れ、しかも、どの内容も看板の「臨床医学概論」とそぐわない。現行カリキュラムの矛盾を集約したような科目である。そういう意味で学生の皆さんに多大な迷惑を掛けている。

自由記載欄の意見にも、「全体を通してのカリキュラムの見直しを求める」「ばらばらの授業内容だ」「内容の共通点のなさにテスト勉強のやる気が失せた」「科目の名称を変えよ」などと耳の痛い批判があった。せめてもの罪滅ばし(?)として、試験は、CBTや国家試験を踏まえた無理・無駄・むらのない素直な択一問題50問のみとした。矛盾だらけの科目の割に評価が高かったように見受けられるのは、ひとえに、この試験のためであろう。

他の意見として「法医学の中毒分野の講義を増やせ」「健康科学の授業の最後の確認問題はプリントして配布せよ」が目についた。現行カリキュラム内での微修正に役立てたい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅰ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：96 配布数：95 回収数：84 回収率：88.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.0	3.9	3.3	4.0	3.5	3.6	3.8	3.7	3.6	3.8	4.1	3.4
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅰコーディネーター 菊池 健次郎

循環器と呼吸器の内科・外科を網羅する講義であるが、最初の臨床系統講義でもあり、総じて学生は熱心であった。シラバスとの整合性の問題を指摘する意見が目につく。救急的病態を扱う領域の特殊性も有り、緊急手術・急患・外来・病棟・学会・出張など担当各科の指導者全ての予定を調整することは現実的に不可能であり、講義予定が前後して学生諸君には申し訳なく思う。内科・外科の分割、循環・呼吸の分割などの意見は常時提案されるが、一長一短の面がある。最も懸念されるのは、3学年前半で全ての講義が終わってしまう循環器学・呼吸器学に関する知識が、5年生の臨床実習開始時にどれほど保持されているかという点である。反復的に学習する機会をどのように確保するかも今後の検討課題であろう。指導者間の授業内容の格差を指摘する意見には真摯に耳を傾け、指導専門家としての各自のスキルアップを求めたい。総じて循環器・呼吸器に興味を持ってくれた学生が多い事は素直に嬉しく思う。

科目名：臓器別・系別講義Ⅳ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：96 配布数：93 回収数：83 回収率：89.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.4	4.2	4.1	3.6	4.1	3.8	3.9	4.2	4.1	4.0	4.1	4.1	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅳコーディネーター 葛西 眞一

臓器別・系別講義Ⅳは、消化器病学の診断と治療の総論、各論について、消化器内科と外科が中心となっており、一部放射線科および学外の非常勤講師が担当している。約1ヶ月間に集中して行われるので学生も効果的に授業を理解しやすい様である。講義内容が内科と外科で重複しない様にそれぞれ注意しているので許容範囲との評価であった。テスト問題は授業担当教員にお願いしているので問題数は多くなるが難易度はそれほど高くなく、最高点は9割、平均点は7割に達する。それでも1割近くの落第点があり、一層の奮起を期待したい。総合評価の4点は、本講義が概ね受け入れられているものと判断されよう。

科目名：社会医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：104

配布数：104

回収数：59

回収率：56.7%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.2	3.9	3.2	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	3.9	4.0	3.8	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

*評価に対するコメント

社会医学コーディネーター 吉田貴彦

統合科目「社会医学」が開講されて2年目になる。社会医学は、衛生公衆衛生学領域と法医学領域からなり、中毒学や各種有害因子による死亡まで含む健康障害など臨床医学に近い領域から、医学・保健統計、医療行政・法規など暗記中心の領域まで扱い範囲が広いために捉え所が無くなるのではなかろうか。医師国家試験の科目であるが扱う領域の特性から出題傾向が相当変わりつつある。受験は先のことなので、コアカリと国家試験出題基準に準拠して満遍なく講義編成している。不足部分は卒業前の国家試験対策で補足している。また、第3学年開講の臨床医学概論Ⅰ・Ⅱを含めて講義を調整しており、次年度に落ち着く予定であるが、今年度は「社会医学」がタイトなスケジュールとなり、学生さんにとっては勉強が大変であったろうと思ってお詫びしたい。臨床医に進むとしても予防医学的な考えは今後一層必要とされるので、興味が持たれやすくする工夫を今後も心掛けたい。

科目名：臨床放射線学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：106

配布数：104

回収数：77

回収率：74.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.4	4.0	3.5	3.6	3.9	3.2	3.7	3.2	3.0	3.3	3.4	3.1
問14	問15	問16	問17	問18								
3.4												

*評価に対するコメント

臨床放射線学コーディネーター 油野民雄

臨床放射線学は、放射線診断学、放射線治療学、核医学およびIVRより成り立っている。放射線・放射能を利用しているため、医療放射線の安全防護の観点からも、放射線物理学および放射線生物学の知識が不可欠である。このように、臨床各科と関係する学際的な領域のため、臨床検査学とともに、臓器別・系統別講義とは切り離された一つの独立した講義として存在する。一方、当大学の教育方針は統合科目を基本方針としており、また臨床放射線学で与えられた時間数は15時間に制限されている。この15時間の講義で放射線医学の全てを行うのは困難であり、統合科目の中でいくつか与えられた時間数を利用して、ようやく放射線医学全般の講義が成り立っていることを理解していただきたい。即ち1年前期の生命科学Ⅱで放射線物理学、放射線生物学が、統合科目Ⅺで医用生体工学の一環として放射線医学に関連した重要な応用工学が行われており、このような知識の土台の上に、またその延長線上として放射線・放射能を用いた臨床が成り立っている。講義終了後の試験は、放射線医学に関する知識の習得を確認する最後の機会のため、放射線医学全般に亘って実施している。学生諸君からは15時間で実施した内容に限って試験を実施して欲しいとの希望が多いため当然のことながら不評であるが、放射線医学を担当する責任者として、このまま放射線医学全般に亘る試験を続ける積もりである。

科目名：臨床医学概論Ⅲ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：104 配布数：88 回収数：53 回収率：60.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.5	3.7	2.8	3.6	4.0	3.8	3.9	3.8	3.7	3.6	3.4	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6												

＊評価に対するコメント

臨床医学概論Ⅲコーディネーター 奥村利勝

平成17年度の医学科に新規開講した本医学概論Ⅲはチーム医療の実際をテーマに講義を構築してきました。この講義以外で聞く事のないコメディカルの方たちからのお話がいただける貴重な場と考えています。本年度より、看護師の業務に加え、本大学病院に勤務するWOC認定看護師、癌化学療法認定看護師、NICU認定看護師と特別な資格をお持ちの看護師の方がたからの講義も加えました。より学生に興味深い内容になったと確信しております。しかしながら、学生からの評価は全体として3.6と低く、またこれからの学習意欲を増すかの項目は3.4と低いことは十分に反省させられる評価でした。前臨床実習段階の学生により学習意欲を増加させることを重要観点として講義構成の工夫を重ねることが必要と考えております。

科目名：臓器別・系別講義Ⅶ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：104 配布数：101 回収数：56 回収率：54.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.1	4.1	3.4	3.9	3.8	3.7	4.0	3.7	3.7	3.8	3.9	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅶコーディネーター 藤枝憲二

臓器別・系別講義Ⅶは、産婦人科・産科、小児科、泌尿器科、小児外科、救急医学の各講座が担当し、産婦人科学、胎児・新生児・小児・思春期における内科的・外科的疾患をReproductive healthからDevelopmental biologyの視点で理解することを目的として設定されたコースである。本コースが広範囲で難しい授業内容であるにも関わらず、内容はよく、またわかりやすかったとする意見が多く、講義を担当したものの熱意とコースの意図が十分に理解されたものと判断される。授業そのものは学習すべき事項を提示するにとどまるものであること、また試験に合格することのみを目的とした授業ではなく将来にわたり有益な情報を伝えることを主眼としていることを理解し、より一層の自学自習が必要とされることを再確認してほしい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：105 配布数：105 回収数：76 回収率：72.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.4	4.2	4.0	3.6	4.0	4.0	3.9	4.1	3.8	3.7	3.8	3.9	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅷコーディネーター 岩崎 寛

全体的評価は悪くないものと考えています。講義の内容を前もって冊子として配布していた麻酔蘇生学の評価が高かったと思う。

今後は、統合科目としての横の連絡が必要と思われた。

科目名：人間科学Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配布数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.5	4.4	4.0	2.6	4.0	4.2	4.1	4.4	3.7	3.8	4.1	4.3	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
4.3												

＊評価に対するコメント

人間科学Ⅰコーディネーター 林 要喜知

人間科学Ⅰの評価平均点数（問5～14）は4.06であり、まだまだ改善をしていく余地が認められる。低評価の項目をみると、「学習内容の難易度が高かった」、「そのため、必ずしも理解がしやすい内容ばかりではなかった」。さらに、「試験や提出物の量と内容は適切ではなかった（多かった）」等に集約できよう。逆に、高評価を得たところは、「シラバスにそって毎回の講義が計画的に進められた」、「講義資料はよく準備されていた」、「質問対応も丁寧であり、学習内容は興味深く意欲を増すものであった」などが挙げられる。一部、相反する具体的意見もだされているが、これは多様な学生の要求に必ずしもきめ細かく答えていないためと反省している。理解しやすく、興味深い学習内容に高める努力を、今後も続けていきたいと考えている。

科目名：人間科学Ⅲ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配布数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.4	4.3	3.5	2.5	3.4	3.9	3.7	3.7	3.5	3.3	3.4	3.2	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6												

＊評価に対するコメント

人間科学Ⅲコーディネーター 谷本光穂

この講義は物理学、化学の領域から構成されている。各項目の単純平均は3.44であり、決して良い評価とはいえない。評価を下けているのはおそらく物理学分野だと思われる。物理学は入試の結果を見ると殆どの学生が高校時代に物理学を履修していない集団である。そのため、我々はリメディアル物理教育として15コマ、時間外のボランティア（担当：本間龍也物理学助教授）を行っているが、この授業評価を見る限り決して効果が上がっているとはいえない。あまり興味のない科目の授業を受けて良い評価がでるとは期待できない。こちらは、この講義で少しでも興味を引かせようと努力はしているが、さっぱり効果は表れてこない。評価が3以下の問1（2.4）、問4（2.5）は予習、復習をしていないことを表しており、自己学習の態度が身についていないことを示している。果たして必修科目として扱う必要があるのか再度検討すべき時期に来ていると思われる。

科目名：健康教育論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：70 配布数：67 回収数：66 回収率：98.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	4.3	3.3	2.8	3.8	3.2	3.3	3.6	3.5	3.4	3.4	3.2	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.3												

＊評価に対するコメント

健康教育論コーディネーター 望月吉勝

この科目では、参加型授業を意図してPeer Lectureを多用しており、今年度も説明班に担当箇所を割り振って、事前学習のうえ授業時に発表してもらうことを繰り返し行いました。説明班には、ホワイトボードに図解しながら分かり易く説明するという指示だけとしましたが、例えば紙で自作したシーソーのモデルを使うなどの創意工夫が見られました。質問者については、今年度は班ごとの指名とはせず、説明班以外から当日ランダムに数名選出しました。これは、説明班と質問班だけでなく、クラス全員が教科書をよく読んだうえで、授業で理解を深めることを意図してのことでした。だんだんに要点をとらえた質問も出るようになりましたが、この意図は十分には浸透していなかったようです。

専門職となる勉強は当然難しさを伴うものであり、ある程度の土台ができるまでは理解が進まず、見通しもきかず、辛く感じるでしょう。山登りや階段を登ることにたとえて、ある程度の高さまで登らなければ見晴らしも良くなり、辛いだろうが、歩き続けなければ（土台となることをコツコツ勉強しなければ）、見晴らしのいいところまでも到達できない、だから今できることをコツコツやろうと、繰り返してきました。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通）
② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：生命科学実習Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：88 配布数：85 回収数：85 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	4.8	4.5	4.4	4.4	4.6	4.0	4.4	4.0	4.3	4.1	4.1	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2	4.3	4.4	4.5	4.4								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅰコーディネーター 上 口 勇次郎

この科目は、医学科の学生が入学後最初に取り組む実習で、生命科学実習Ⅱ～Ⅷへと続く入門コースである。学生の自己評価では、予習をしたかという点で反省があるものの（問1）、実習への取り組みは真剣であり、（問2、3）、教員もこの点では学生を高く評価している。実習計画、実習内容、実習環境など教員側の企画（問4～17）の点では、昨年と同様に学生の評価が比較的高く、総合評価（問18）で4.4という評点だったので、今後も基本的には現行の実習形態を続けながら小さな改善を積み重ねて行く予定である。問13「課されたレポートの量や内容は適切か」の評点がやや低く、一部の学生はレポート作成に負担を感じているようである。しかし、負担がかからないようでは学習効果も上がらないので、むしろこのくらいの評点でちょうどよいと考えている。

科目名：生命科学実習Ⅴ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：88 配布数：84 回収数：82 回収率：97.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.7	4.2	3.9	4.0	4.0	4.0	3.8	4.0	3.9	3.7	4.0	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8	3.9	4.1	4.0	3.8								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅴコーディネーター 高橋雅治

受講者自身についての評価では、受講態度についての評価が高く、受講者は熱心に取り組んでいたことが伺える。

実習の計画、内容、環境についての評価は、すべての項目が「普通」から「良い」の範囲（3.6～4.1）であり、ある程度よい評価が得られたと思う。

一方、問13（レポートの量）については、比較的低い評価となった。これは、心理学実験で課した科学論文形式のレポートの作成が、学生にとって大きな負担となっていたためと思われる。本実習の目的のひとつは、実験計画、データ整理、論文作成などの研究リテラシーを身につけることであり、その意味で、レポート提出は欠かすことができない。従って、今後は科学論文の執筆方法についての教育を取り入れることを計画している。

科目名：生命科学実習Ⅵ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：88 配布数：88 回収数：79 回収率：89.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.7	4.9	4.6	4.5	4.6	4.2	4.3	4.2	4.4	4.7	4.3	4.1	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0	3.8	4.2	4.4	4.2								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅵコーディネーター 谷口隆信

問15（設備・機材）以外の項目は4点以上の評価であり、特に問1～3の平均が4.7と諸君の積極的な参加を得られたことをスタッフ一同大変嬉しく存じます。生化学の実習は酵素を自分たちで精製し、それを材料に酵素の性質を究めるべくアッセイをやっていく段取りになっているのですが、班の中でうまくチームワークを組んで全体の流れを見失わないように上手に分担していく必要があります。チームワークは医療の現場で大変に重要なポイントであり、予習・打合せの重要性に気付き臨床にも活かして頂けるのではないかと期待しています。機械類については確かに老朽化していますが、点検整備はおこなっていますし、分光光度計などは1台50万円はすることを考えると、現状は十分に許容範囲であると考えています。これは臨床でも同じことで、すべての病院にMRIやヘリカルCTは備わっていないと思います。アナログでもデジタルでも、そこにある機械を上手に使い、できる範囲で患者さんのために最善を尽くす、皆さんが大学を離れた時にこの実習のことを思い起こして頂きたいと存じます。

科目名：生命科学実習Ⅶ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：88 配布数：82 回収数：82 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.8	4.3	4.2	4.2	4.1	4.2	4.0	4.1	4.2	4.0	4.1	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0	3.8	4.2	3.8	4.0								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅶコーディネーター 伊藤 喜久

平成18年度、生命科学実習Ⅶについても学生諸君にとって、概ね満足の得られる実習が行われたことをうれしく思っています。

一部学生の意見については該当講座からの回答が寄せられています。微生物学講座担当「血清反応Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」について、「説明時間が長すぎる」との意見が複数寄せられました。準備した開設内容は、実験遂行に必要な技術的なものと、その実験で観察される現象の医学生物学的意義に関するものでした。どちらも各実習の全体像を学生諸君が把握するためには必須の事項ですが、後者は、関連講義の展開時期の調整や、実習書の早期配布でカバーすることが可能であるので、次年度からその工夫を試行したいと思います。

学生実習は、清潔な環境で肅然と遂行されるべきものであると考えます。上履き着用で遅刻せずに出席する事が、最低限の受講条件である事を再度申し添えます。

この他、あらかじめ実習書を配布して欲しいとの要望があり、改善、改良をはかることにいたします。

科目名：生命科学実習Ⅷ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：88 配布数：85 回収数：83 回収率：97.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	4.9	4.4	4.0	4.2	3.0	4.0	3.4	3.7	4.0	3.8	3.9	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1	3.8	4.0	4.1	3.9								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅷコーディネーター 中村 正雄

昨年と比べ、いくつかの問で改善がみられた。全体の評価として、基礎医学実習に占める生命科学実習Ⅷの位置を理解し、学生諸君は意欲的にこれに取り組んでいる姿勢が感じられる。

自由記載で、PartⅡについて重要性を感じながら、実施時期が前期試験週の直前で落ち着いて取り組めない、指導するスタッフの絶対数が足りないなどの頭の痛い指摘があり、問6の評価の低下となってあらわれている。カリキュラムを構成する科目の内容と開講時期を全体で検討する時期に来ており、指摘された点の改善を提言したい。

科目名：基礎医学実習Ⅱ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：96 配布数：95 回収数：92 回収率：96.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.1	4.7	4.5	4.3	4.4	4.3	4.2	4.2	4.1	4.3	4.1	4.1	3.1
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0	3.7	4.1	3.9	4.0								

＊評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅱコーディネーター 柏 柳 誠

人体生理学実習（45コマ）から基礎医学実習Ⅱ（90コマ）へと大きな改革がなされて以来、3年目を迎えた。1年目、2年目と高井章教授による大きな努力により着々と形を整え、第一内科および看護科の協力を得て、ようやく落ち着いて実習に取り込めるようになってきた。総合評価は、昨年とほとんど変わらない4.0と「全体として満足」と感じた学生は多かった。ただし、自由意見としてレポートが多いとクレームを書いた学生数が19人、レポートの量に関する問13のポイントが3.5（昨年）から3.1に下降した。しかしながら、定期試験ではCBTなどを意識して5択設問が増えている。論理的に考察し、文章を書く機会が減少している現状では、授業評価が低くならうとも、レポート作成は大変貴重な教育機会と学生諸君に理解を得られるよう努力したい。

科目名：基礎医学実習Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：96 配布数：88 回収数：66 回収率：75.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.0	4.9	4.5	4.5	4.6	4.3	4.5	4.3	4.4	4.4	4.2	4.2	4.4
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2	4.1	4.2	4.4	4.3								

＊評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅲコーディネーター 牛 首 文 隆

基礎医学実習Ⅲの目的は、動物や標本に投与した薬物の作用を観察し、得られた結果から妥当な結論を考察することにより、薬理学に対する理解を深めることである。このため、実習内容は、丸ごとの動物を用いた実験から摘出臓器を用いた実験と多岐にわたる。今回の実習に対する評点は、すべての項目で高いものであった。したがって、多くの学生は本実習に対して概ね満足していることが伺えた。また、実習では、予想通りの結果を得ることができない場合もあった。このような場面で、ただ失敗したというのではなく、何が良くなかったかを考えることを是非心がけて頂きたいと思う。薬理学に限らず、多くの分野で予想と違った結果から新しい知見を得ることが多いからである。今後も、より充実した実習を目指すために、いろいろな意見を遠慮なく頂きたいと思っている。

科目名：基礎医学実習Ⅳ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：96 配布数：93 回収数：90 回収率：96.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.7	4.4	4.2	4.0	4.2	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1	3.9	4.0	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9	3.9	3.9	4.0	3.9								

＊評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅳコーディネーター 若宮伸隆

昨年度と同様に、実習開始時刻の厳守、実習中の服装や履物に関する規律の厳守など、実習内容以外のことに関しても様々な指導を行ったが、学生諸君は本実習を好意を持って評価してくれたと思う。ただし、自己評価項目以外で、2項目に評点1（良くない）が1例ずつあった。1つは項目4「実習の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか」であり、もう1つは項目5「実習はおおむねスケジュールに沿って行なわれましたか」であった。項目5については、微生物という「生き物」を相手にする実習であり、確実に時間内に納めること自体困難であるが、項目4については、何らかの対策が可能であり、次年度の課題にしたい。実習全体として良く評価して戴いたことをふまえて、今後共、実習内容、実習方法の質の維持と改善に努めたいと思います。

科目名：基礎医学実習Ⅴ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：96 配布数：96 回収数：91 回収率：94.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	4.8	4.4	4.1	4.5	4.2	4.4	4.2	4.0	4.0	3.9	4.1	4.2
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0	3.9	4.3	4.3	4.2								

＊評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅴコーディネーター 立野正敏

評価結果は大体4.0以上であり、良い評価を受けたと考えている。低かった項目は標本の不備で、少しずつではあるが標本を新しい物に交換しているが一時に変えることは無理があるのと、現在では得ることのできない病変もあり、その意味でも大事に使用していただきたい。予習についてもあまり高くない評価であったが、最初に実習のスケジュールが示されており、講義も終了しているので疾患名程度は事前に理解しておいていただきたい。CBTが本格実施され、その対策も兼ねて組織のレポートを出してみた。確かに一部の学生からは優秀な解答が得られたが、インプットした労力に比べて効果があったのかは疑問であり、来年度は少し方式を変えるなり考えていきたい。最近では一部の大学でバーチャルスライドを用いた実習が行われるようになり、顕微鏡を使わずPCでの実習が価格対効果的に有効といわれており、本学でもそれに向けた取り組みが必要と考えている。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配布数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.7	4.9	4.8	4.6	4.7	4.1	4.1	3.9	4.3	4.4	3.7	4.1	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
4.3	4.2	4.4	4.1	4.3								

＊評価に対するコメント

基礎看護技術Ⅱコーディネーター 升 田 由美子

注射・採血、フィジカルアセスメントといった基礎看護技術を学ぶこの科目は、学生の興味・関心も高い。問1～3は4.7～4.9であり、演習に参加する態度もほとんどの学生が熱心である。総合評価4.3と学生の満足度も高い。問8指導担当者間の連携に関して、教員により指導内容が異なっているという指摘を自由記載により受けた。教員間で事前にお互いの看護技術を確認し、指導内容の統一を図っているが、このような指摘を受けるのは、人が人に対して行うという看護技術の特色を反映しているともいえる。しかし、指導内容が違ふと学生が受け取るとはよい結果はもたらさない。引き続き教員間の連携を深める。「先生によって言うことが違う！」と思ったら遠慮なく言っていただきたい。

他には「自己学習の必要性を感じた」「もっと注射の練習をしたい」といった記載があり、今後とも基礎看護学実習室の設備と、教員という資源を活用して、さらなる看護技術のレベルアップを図っていただきたいと思う。

体育実技企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 授業に毎回出席しましたか。
	問2 授業中は積極的かつ真面目に実技に取り組みましたか。
授業計画	問3 授業はおおむねスケジュールに沿って行われていましたか。
	問4 履修要項は適切なものでしたか。
	問5 学生数に対して指導教員数は適切でしたか。
	問6 指導担当者間の連携は適切でしたか。
授業内容	問7 各回の事前指導は、実技を行うにあたって適切でしたか。
	問8 教員の指導は、技術を向上させるうえで適切でしたか。
	問9 実技によって基礎的な技術を習得できましたか。
	問10 要求された実技の難易度は適切なものでしたか。
授業環境	問11 実技用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。
	問12 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。
	問13 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問14 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
- ④ やや思う（良い）
- ③ どちらとも言えない（普通）
- ② あまりそう思わない（あまり良くない）
- ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：体育実技（看護学科前期選択科目）

履修者数：17 配布数：15 回収数：15 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.3	4.9	4.6	4.7	4.8	4.2	4.8	4.6	4.7	4.6	4.7	4.4	4.6
問14	問15	問16	問17	問18								
4.8												

＊評価に対するコメント

非常勤講師 杉山喜一

例年の体育授業では、30名前後の者が受講していたが、今年から看護学生のための登録で17名の受講生にとどまった。看護学科の性格上、女子が14名に対して、男子の受講生が3名と、男女の比率にアンバランスがみられたが、全体を通してアットホームな雰囲気の中でスポーツ活動が行われた。本年度講義内容は、従来人気のあった（ミニ）バレーや卓球、バドミントンの他に、フリスビーを用いたゲームやホッケーに似たユニホックなど、ニュースポーツの導入を積極的にはかった。また体のコンディショニングを目的に、適宜ストレッチングや体力作りの活動も取り入れた。学生自身、健康に対する意識や身体を動かすことへの欲求が高かったこともあり、多くの受講生が、授業に対して非常に熱心に取り組み、授業態度や出席状況においても特に問題はみられなかった。今回の調査結果では、4.2～4.9の範囲で、全ての項目で4以上の評価が得られ、とりあえず講義内容に対して、ある程度学生の要求を満たすものであったといえる。

平成18年度解剖体慰霊式

平成18年度解剖体慰霊式が9月20日（水）午後1時30分より本学体育館において執り行われました。

慰霊式においては、本学学生等の教育及び学術研究用に尊い遺体を提供され、医学発展の礎石となられた方々の精霊の御霊に対して、ご冥福をお祈りするために黙とうが捧げられ、引き続き八竹学長と学生代表（医学科第3学年渡壁綾子）から追悼の辞が述べられました。

その後、御遺族と御来賓の方々並びに教職員、学生の代表からの献花が捧げられ、亡くなられた方々の御遺徳を偲びご冥福を祈念しました。

（総務課）



医学科第2年次後期編入学生入学式

平成18年度医学科第2年次後期編入学生の入学式が10月2日(月)8時30分より第一会議室において執り行われました。

当日は、八竹学長より編入学生に対し祝辞が述べられ10名が旭川医科大学学生としての新たな学生生活の一步を踏み出しました。

編入学生は次のとおりです。

池谷 頼子	角谷ひとみ	栗原 正輝
齊藤健太郎	筒井 登子	大谷 将秀
川崎 明香	佐藤 美佳	武田 美鈴
柳澤 雄太		



外国人留学生秋季オリエンテーション

平成18年度外国人留学生交流事業の一環として、秋季オリエンテーション及び交流会が、9月28日(木)、本学に在籍する外国人留学生と研究者の7名と、外国人教師を含む本学職員5名が参加して行われました。

今回も昨年に引き続き、留学生の皆さんに旭川市内の文化施設等を案内し、大学が位置する旭川市をもっと理解してもらう目的のため、動物たちの姿を行動展示という方法を取り入れ全国的に有名になった『旭山動物園』をはじめ、『中原悌二郎記念 旭川市彫刻美術館』『川村カ子ト アイヌ記念館』の3ヵ所を巡りました。

午前中は、『旭山動物園』でしたが、あいにくの冷たい雨が降る中で、園内にある行動展示施設等を自由に見てもらいました。

昼食後は、作品を展示している建物が、国の重要文化財の指定も受けている『中原悌二郎記念 旭川市彫刻美術館』を訪れ、日本の近代彫刻史に偉大な足跡を残した旭川ゆかりの彫刻家 中原悌二郎(1888~1921)の作品や同氏に大きな影響を与えた彫刻家たちの作品を、同館館長からの説明を聞きながら鑑賞してもらいました。展示されている作品の中に、「考える人」で有名なロダンが制作した男性裸体像もあり、その作品の腹部の一部が隆起していることから、「腫瘍かな?」「ヘルニア?」などと、参加者の中から本学らしい会話もありました。

彫刻美術館での見学が終了後、近接する『川村カ子ト アイヌ記念館』を訪れ、留学生たちは館内にある様々な史料を見ることにより、初めてアイヌ文化を知ることとなり有意義な見学となりました。



スキルズ・ラボラトリーが移転しました

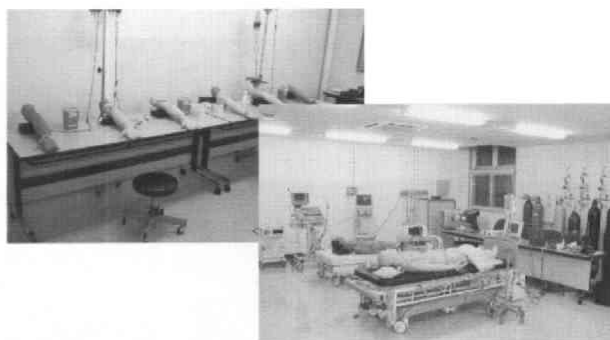
スキルズ・ラボラトリーは、平成14年9月に大学病院1階に、医学教育の自学自習の場として設置され、その後、平成17年2月に病院外来棟の再開発工事のため、臨床研究棟及び機器センターに一時移転しましたが、本年10月16日（月）に、大学病院共通棟（旧仮設外来診療棟）に再び移転いたしました。

スキルズ・ラボラトリーには、「コンピュータ・アシストラボラトリー」、「基本的臨床スキルズ・ラボラトリー」、「心肺機能・救命救急スキルズ・ラボラトリー」、「感覚器診断スキルズ・ラボラトリー」、「術前手洗い練習室」及び「教員室兼教材作成室」の各ラボがあり、各種シミュレーター等が整備されています。

現在は、主に臨床実習及び臨床実習序論等で使用されていますが、縫合トレーニングキット等も整備していますので、OSCE（客観的臨床能力試験）の自

習等にも利用できます。

なお、医学科第4学年以上の学生であれば、どなたでも利用することができますので、利用を希望する場合には、学生支援課実習教育係（内線2207）において、申し込みを行って下さい。



「音楽の夕べ」開催される♪

学生の夏休みの終わりが近づいた8月26日（土）の午後2時00分より大学病院玄関ホールを会場に音楽系4団体によりますコンサート「音楽の夕べ」が開催されました。

各団体の日頃の練習成果を発表する場として、また、入院されている方々への生演奏の提供と日々の入院生活への癒しを目的としたコンサートとして毎年この時期に開催されています。

今年は、ギター部の演奏からスタートし、合唱部、室内合奏団、最後は、プラスアンサンブルという順のプログラムでした。

当日は、入院されている患者様はもちろんのこと、

お見舞いに来院された方や、近隣の方など多くの皆様が聴衆となられ、夏の日的一天、生の音を心ゆくまで楽しんでおられました。

ZZZZzz~
ZZZZzzじゃなくて、♪
♪♪~##
#~♪♪♪
~b b b
~。



体育大会実施される

8月30日（水）に学生主催によります毎年恒例の体育大会が実施されました。

当日はあいにくの雨模様の天候でしたが、屋外ではソフトボールとサッカー、体育館ではバレーボールとバスケットボールが実施され、各学年の力を発揮し栄冠を勝ち取るために熱戦が繰り広げられました。



学生の事故・違反の取扱に関する 申合せについて

「飲酒運転防止等について」は、平成18年9月21日付の掲示にて、「学生の事故・違反の取扱に関する申合せの一部改正について」は、平成18年10月31日付の掲示にて周知しているところですが、冬になり路面状況の変化などにより今まで以上に慎重な運転が求められることから、徹底した安全運転を心掛けるよう、再度周知するために掲載します。

また例年、この時期に大学周辺の道路に不法駐車している車両が多く、除雪車の運行や救急車両の運行などの妨げになり、近隣の住民の方々に大変な迷惑を掛けているとの苦情が寄せられます。不法駐車も立派な違反行為であり、度が過ぎれば罰金刑の対象ともなりますので、安全運転と同様に、公共のマナーを心掛けてください。

平成18年9月21日

学 生 各 位

学長 八竹 直

飲酒運転防止等について

最近、全国的に飲酒運転による死亡事故が多発し、社会問題化しています。

学生諸君は、医療に携わる者として、生命の尊厳をわきまえ、飲酒運転は絶対にしないようにしてください。

また、飲酒運転をした場合には、訓告以上（訓告、停学、退学）の懲戒処分を、さらに人を死亡又は負傷させた場合は、停学以上の懲戒処分を科しますので、このようなことにならないよう今まで以上に交通安全に心掛けてください。

なお、本学では「学生の交通事故・違反の取扱に関する申合せ」を定めており、「かぐらおか（第125号・平成18年9月15日発行）」に掲載しましたが、現在、飲酒運転の同乗者に対する処分も含め、処分基準の見直しを進めています。

また、医師・保健師等の免許申請時においては、罰金刑以上の刑に処せられたことの有無を問われます。本学では、交通事故・違反を起こした場合の届出を義務化していますので、逃げ得と思わずに学生支援課に届け出るようにしてください。

平成18年10月31日

学 生 各 位

旭川医科大学長 八竹 直

学生の交通事故・違反の取扱に関する申合せの一部改正について

平成18年10月11日開催された教授会におきまして、「学生の交通事故・違反の取扱に関する申合せ」の一部が下記のとおり改正されました。

内容としては、該当者の処分が、より厳しいものとなっており、また悪質なものについては、同乗者についても同様の処分が課せられるものとなっています。

平成18年9月21日付け「飲酒運転防止等について」の掲示にて注意したとおり、今後も交通法規を守り、交通事故・違反がないように安全運転を心がけてください。

記

学生の交通事故・違反の取扱に関する申合せ

平成18年10月11日

教 授 会 決 定

（対 象）

第1 本学学生が交通事故・違反を起こし、罰金以上の刑に処せられた場合、「学生の本分に反する行為をした者」として処分を行う。その際、飲酒運転、無免許運転等の車両に同乗した者も処分の対象とする。

（処分の種類及び内容）

第2 処分の種類及び内容は、次のとおりとする。

- 1 退学 学生としての身分を喪失すること。
- 2 停学 一定の期間、大学への登校を停止すること
- 3 訓告 文書及び口頭により注意を与え、将来を戒めること。

（処分基準等）

第3 処分に当たっては、交通事故・違反の原因、状況、結果、影響等を考慮の上、総合的に審査し、以下の基準を勘案する。

1 飲酒運転、無免許運転、著しい速度超過運転等の悪質なものについては、退学又は停学とする。なお、同乗者についても同様の処分とする。

2 前項以外で、罰金以上の刑に処せられた場合は、次の基準により処分を行う。

(1) 人を死亡させ、又は負傷させた場合は、退学又は停学とする。

(2) 物損事故を起こした場合は、停学又は訓告とする。

(3) 上記(1)、(2)以外の場合は、訓告又は厳重注意とする。

3 第1項又は第2項に再度該当した場合は、前回の処分よりも厳しい処分とする。

4 該当者が入院治療中の場合は、状況を勘案して処分を行うものとする。

（届出等の義務）

第4 交通事故・違反を起こした学生は、次のとおり届出・報告書を学生支援課に提出しなければならない。

1 交通事故・違反の発生から14日以内に、別紙1「交通事故・違反に関する届出書」を提出すること。

なお、入院治療中等で期限内に別紙1を提出できない場合は、その旨を口頭により申し出ること（代理人でも可）により提出を猶予する。

2 罰金以上の刑の確定から14日以内に、別紙2「事故等の報告書」に当該交通事故・違反の詳細及び本人の弁明事項等を記載し、事実を証明する書類（起訴状、判決文、罰金にかかる領収書等）を添付し、提出すること。

3 第1項及び第2項の書類の提出等について、期限後に提出した場合は、その行為を含めて処分の対象とする。

附 則

この申合せは、平成16年4月1日から実施する。

附 則

この申合せは、平成18年10月11日から実施する。

平成19年度授業料の一括納付について

授業料は、前期分を納付する際に後期分も併せて年額として一括納付することができます。

希望される方は、下記の期限までに印鑑を持参のうえ、事務局管理棟1階の会計課出納係へ申し出て下さい。

申込み期限 平成19年 3 月30日

※一括（年額）納付については、毎年手続きが必要となりますので注意して下さい。

（会計課出納係）

【投書箱】学生の声「ひとことふたこと」設置される

本学では、学生支援の観点から学生生活全般について改善していくため、学生のニーズを把握することを目的とした【投書箱】、学生の声「ひとことふたこと」を11月16日に設置しました。

投書箱の設置場所は、学生玄関ホール、看護学科棟2階D講義室前ホール、臨床講義棟ホールの3カ所となっています。

投書箱の開封については、学生支援課が担当いたします。

また、質問等に対する回答については、2～3週間後を目途に掲示する予定です。

「〇〇をしてほしい!」、「△△はどうしてなの?」など、学生生活に関係することなら何でも結構です。

是非、あなたの声をお寄せく

ださい。あなたの声が大学を変えるかも?

(学生支援課)



教員の異動

退職 18.7.31 看護学講座 教授 松浦和代
 退職 18.9.14 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 助教授 野中 聡
 昇任 18.9.16 眼科学講座 講師 籠川浩幸
 退職 18.9.30 病院第一外科 講師 山崎弘資
 昇任 18.10.1 病院第一外科 講師 北田正博

昇任 18.10.16 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 助教授 林 達哉
 昇任 18.10.16 病院総合診療部 助教授 丹野誠志
 昇任 18.10.16 病院耳鼻咽喉科 講師 荻野 武
 昇任 18.12.1 看護学講座 教授 黒田 緑
 (総務課)



窓 外

保健管理センター
保健師 藤尾 美登世

私と空気

週末、何気なく付けたテレビの画面に釘付けになった。そこには私が、若い頃から（今も若い）敬愛している方が映っていたのだ。

各界の著名人のドキュメント映像などを10分程に編集し放送しているというその番組を、残り5分ぐらいは見ることができただろうか。

静かな口調で淡々と語られていくエピソード。20代の頃、彼は、ある志を立て努力を重ねるが、志半ばで肺結核を患う。

そんな折、同じ病気で軽症だった兄の方が、あっけなく他界してしまう。

「自分もそんな長生きできる人生ではない」と落胆し、孤独な療養生活を送ることになる。

ある日、久しぶりに寝床を離れ、庭の隅の南天の白い蕾を眺めていると、気持ちのいい風が頬をなでた。病弱な身体をいたわるようにそよぐ風。

こんな風に吹かれたのは、何年ぶりであろうか。

そしてふと『風とは何だったかな』と考える。

風とは空気が動いているのだ、そう思ったとき、はっと気づく。— そうだ、空気というものがあったのだ。生まれてから二十年もの長い間、この空気に育てられながら、この空気に養われながら、空気のあることに気づけなかったのである。自分は気がつかなくとも、空気は、片時も離れず、自分を守り育ててくれていたのだ。こう気づいた時、泣けて泣けて仕方がなかったという。

「ああ、一人じゃなかった。孤独じゃなかった。」

その瞬間、彼は、その心境を歌に託した。

「大いなるものにいだかれあることを
けさふく風のすずしさに知る」

私が、この歌に出会って、二十年の月日が流れた。私は、いつも自分の周りにある大切なものを見落とさずに生きてこれたのだろうか。

窓内にも窓外にも、いつも空気は満ちている。